

# 組合だより

第96号

5月31日

2006年

発行所 岡山大学職員組合

〒700-8535 岡山市津島中 2-1-1

Tel 086-252-1111(代)

直通/Fax 086-252-4148

HP <http://hb4.seikyoku.ne.jp/home/ODUnion/>

Mail [ODUnion@mb4.seikyoku.ne.jp](mailto:ODUnion@mb4.seikyoku.ne.jp)

日時:2006年6月17日(土)13:00~17:30  
~18日(日)9:00~12:00

場所 岡山大学一般教育棟D棟3,4階

テーマ:「法人化3年目の課題」

基調講演 テーマ 国立大学法人と大学評価の課題」

講師 広島大学高等教育開発センター 羽田貴史氏

懇親会 6月17日(土)18:00~ ピーチ3F

## 中四国教研集会開催のお知らせ

来る6月17、18日に、岡山大学にて教研集会が開催されます。テーマは「法人化3年目の課題」。法人化して以来大学が抱えている矛盾点や、法人化してから現れてきた問題点を、中四国の国公立大学の組合が持ち寄り、解決策を検討します。

時には、忙しい毎日の仕事から目を外へ向けて、岡山大学の同僚たちと、そして中四国の大学の人たちと、大学そのものを見つめ直してみませんか。17日夕方には懇親会があります。おいしい料理に舌鼓を打ちながら、いろいろな人と交流を深めましょう。懇親会では、組合合唱団(別名「アメージンググレースを歌う会」)による合唱の披露もあります。メンバーも充実し、本番に向けての練習に励んでいます。皆さんどうぞお楽しみに!

### 羽田貴史氏紹介

「羽田貴史さんは、広島大学高等教育開発

発センターの教授で、大戦後大学改革、近代日本財政史、大学教育論、教員養成論を中心に研究を行われています。羽田さんの著書には「戦後大学改革」、共著に「高等教育概論 大学の基礎を学ぶ」などがあります。こうした研究の一方で、「国立大学法人法の読み方」教育研究組織体としての国立大学へ(「アルカイア学報133」)など、大学の法人化にあたっても様々に発言されてきた方です。全大教の2003年の全国教研集会でも「国立大学法人の課題」と題して記念講演を行われました。今日、国立大学法人は現在いかなる課題を抱えて

いるのか。改めて大きな視野から語って頂きたいと思ってお呼びしました。組合員も、そうでない方も、今後の国立大学のあり方に興味をお持ちの方の積極的な参加をお願いします。



2006年度  
岡山大学職員組合定期大会のお知らせ

日時:6月26日(月)18時~  
場所:農学部 1号館 第3講義室  
役員立候補受付:6月26日17時締め切り  
各単組の代議員の方、ご出席ください。

# 岡大キャンパス戦跡巡り

去る4月8日、岡大キャンパスの戦跡を回りました。岡大キャンパスの戦跡巡りは、8年前に一度行われ、その写真等は当職員組合のホームページに掲載されていますが、学外にこれを見た方がいらっしやうて、是非ともこの戦跡をご自分の目で確かめたいと組合の方に連絡があり、急遽戦跡巡りが実現しました。

この方は江崎和博さんといって、奥さんの父方の祖父にあたる方が岡山出身で、その方が現在の岡大キャンパスにあった兵舎で2年ほど過ごされたそうです。

案内して下さったのは、やはりこの兵舎で数年間を過ごされた水内昌康さんと岡山・十五年戦争資料セン



昭和12年

ター事務局長の上羽修さんです。この件にしましては、戦跡巡りの日程が4月7日に決定され、翌日の挙行だったので、組合員の皆さんにはあまりご連絡が行き届かなかったかもしれませんが。

## 状況により兵舎が兵器倉に

戦跡巡りは、まず自己紹介のあと、上羽さんによる岡大キャンパスの戦跡の重要性の説明、水内さんの昔の地図等による戦跡のお話がありました。特に興味深かったのは、現在の岡大キャンパスや岡北中学校のところが、その時々々の情勢に応じて兵器倉になったり兵器倉になったりしたこと、教育学部の音楽棟の少し南のところから兵器を運んでおり、岡北中学のあたりまでは線路が通っていたこと、現在のいずみ町総合グラウンドが練兵

場であったこと、今の野球場のグラウンドには高い塀が築かれていてその中に爆薬が保管されていたことです。そして何よりも、岡大キャンパスの辺り一面が軍事施設として利用される前には田んぼであったことが信じられませんでした。

## 考古学資料館は食堂・風呂

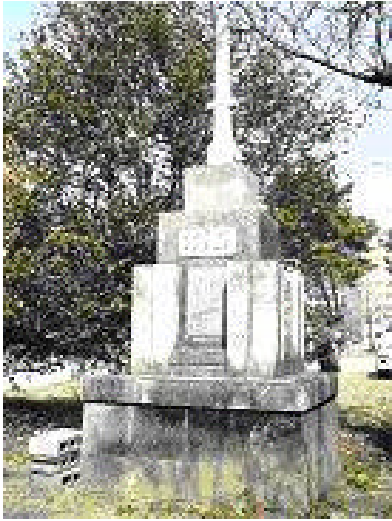
水内さんの説明の後、私たちは本部棟前の岡山大学情報展示室（旧守衛所）、旧岡山大学事務局跡を回り、それから中央図書館西側の考古学資料室（赤煉瓦の建物）を見学しました。水内さんによると、赤煉瓦の建物は、食堂あるいはお風呂場として使われていたそうです。また、考古学資料室の扉のところに「岡山大学文学部考古学資料館」という銘板が埋め込まれていますが、これは水内さんご自身が書かれたものだそうです。

次に私たちは、法文グラウンドの南側の空き地へ行きました。そこには戦時中に爆破訓練に使われたと思われる煉瓦の四角柱が何本か雑然と横たわっていました。そこから法文経の駐車場

戦時中食堂・風呂場だった赤煉瓦  
(生物機能工学科裏一次ページ参照)

を横切つて南に行くと、文化科学系総合研究棟の西側の空き地に出ました。ここには8年ほど前まで組合事務所がありました。が、その組合事務所は戦時中、将校の社交クラブとして使われたものでした。建物が老朽化して倒壊の危険があるということで、取り壊してしまいました。今思えば惜しいことをしたと皆で話しました。

その跡地を見てみると、斜めに傾き上半分が地面に落ちてしまっている石灯籠がありました。この灯籠の碑文を見てみると、「昭和十三年日支事変出征記念」と彫られてありました。おそらく、ここで暮らしていた  
(次ページへ)



軍人勅諭の碑

(前ページより)  
 将校がその前年に始まった日中戦争に派遣されたのでしよう。その前に見た煉瓦の四角い柱にしても、この灯籠にしても、戦争の生々しい現実を見せられた気がしました。  
 その後、私たちは、工学部の生物機能工学科建物の裏手にある赤煉瓦の建物に行きました。ここも赤煉瓦の建物ということで、食堂とかお風呂場として使われていたということです。その赤煉瓦をよく見ると、他の煉瓦と色が少し異なる煉瓦が使われているところが見つかりました。元々窓とか出入り口であったものを、戦後になって大学の校舎として再利用するときに煉瓦で埋めたものであろうということです。

(音楽棟の南側)へ行きました。見学前に水内さんがお話して下さったように、音楽棟の南側に、兵器等を法界院駅まで運ぶための配送口のような跡がありました。「北倉庫第一通用門」と書かれた石の門が片方だけ残っているのです。またこのあたりは高い塀が一面にあります。兵器などが外部から見られないように塀で覆ったということです。

### 軍人勅諭の碑

次に私たちは、岡大東門のそばの教育学部の入り口近くにある「軍人勅諭の碑」を見学しました。周りにいろいろな木が植えられているので、あまり気がつかない人もいるかもしれませんが、砲身の形をしている碑です。

この碑は、明治天皇が勅諭を軍人に下してから50周年経つたのを記念して昭和7年に建てられた

たものです。この碑文

には、「忠節／信義／武勇／禮儀／質素」と書かれています。

水内さんによると、

今の自然科学系総合研究棟、工学部、環境理工学部、教育学部のあ



北倉庫第一通用門

倉庫がいくつも設けられていたそうです。船は鉄製で、3つに分けていました。軍事練習の度にいくつもの船を組み立てて旭川に

たりは兵器工場があり、そこで働く人々は毎日東門を通って仕事場に行ったそうです。その近くの桜の木の下でよく桜の花のように散ることが軍人たるものの本分だという内容の歌を歌わされたという歌を歌って頂きました。たとえ戦争に賛成していませんよ、自然と軍人として死ぬ覚悟ができていったそうです。「教育」というものの怖さをしみじみと話しておられました。

その後、理学部の南側にある古い煉瓦造りの門を視察した後、私たちは最後に旭川の土手まで行き、かつては船を横に並べて橋を渡したという場所を見学しました。当時の土手はもつと低く、土手の上に船を収める

に横に並べて、その上に橋を通す練習をしたのだそうです。また、旭川では爆破訓練も行われたそうです。爆破訓練をすると、魚がショックで気を失って川面に浮かぶので、子供たちが爆破訓練の終わるのを待って川にやってきたというエピソードも紹介されました。ちょうど桜が満開で、かつてはそこで爆破訓練等が行われていたということが信じられませんでした。

1時半から4時半のはずが、6時くらいまでかかってしまいました。4時間以上も経ったなんて気がつかないほど興味深い戦跡巡りでした。皆さんも一度巡られてはいかがでしょうか。

# JSA 40周年記念 憲法9条フォーラムin岡山

日本科学者会議岡山支部主催「憲法九条フォーラムin岡山」は、2006年3月10日(金) 14時から17時30分まで、岡山大学創立50周年記念館にて開催されました。  
現在、「憲法改正国民投票法案」が国会に提出されようとして、この「改憲」により「軍隊」が作られ、日本が堂々と戦争に荷担する国にされようとしています。

日本科学者会議岡山支部では、この危機感から、憲法九条の価値をいろんな角度からあらためて学ぶ機会を作るため、「憲法九条フォーラムin岡山」の開催を企画しました。当日は、教職員、学生、市民など約50名が参加し、以下の内容の講演が行われました。



宗川吉汪氏(日本の科学者)

編集委員長・生命生物人間研究所事務所)は、「憲法九条と科学者」と題し、北朝鮮から送られてきた横田めぐみさんとされる遺骨について、火葬された遺骨のDNA鑑定は不可能なことが明らかにも拘わらず、日本側が「DNA鑑定の結果」他人のものと判明したと主張して外交交渉を行ったことを強く批判し、日本側に科学的なものの見方が欠如している問題の重さを指摘しました。

松岡健一氏(水島協同病院名誉院長)は、「私の戦時体験」と題し、軍国主義教育を受けた少年時代と、広島の被爆者の救護にあたった旧制高校時代の体験、そして、戦後の日本の復興の中で、憲法九条の大切さを心の底から感じ、世界で唯一の被爆国民として九条を守り抜かなければならないと語りました。

中尾元重氏(岡山県平和委員会会長)は、「米軍再編と

自衛隊専守防衛から外征軍へ」と題し、米国の軍事戦略の中で、自衛隊が国民にほとんど知らされないうちに、「同盟軍」として整備されてきた過程をたどり現在、新「防衛大綱」と新「中期防」において、海外派兵を本務とし、最前線で戦う「自衛」隊が作られようとしていることを述べました。

山口和秀氏(岡山大学大学院文化科学研究科教授・憲法学)は、「憲法改変の策動」と題し、新憲法草案の前文や条文において、日本が米軍と一緒に戦争ができるようにすること、それを国民すべてが力しなければならぬことが盛り込まれていると述べ、「既成事実だから憲法改変しよう」とか「変えても現状維持だ」などという宣伝には決してだまされず、その危険なねらいを見定めるべきであることを強く訴えました。

終了時刻ぎりぎりまで熱心な討論が交わされ、後の懇親会にも30名近くが参加し、さらに議論し、懇親を深めました。講演者と参加者の、平和憲法を守るうとする熱意にあふれた講演会でした。

## さんばみち

岡山近郊の地図の上に、大國主神社という名前を見つけた。春風に誘われて、私

は愛車のベダルを踏んだ。近くの農家で尋ねてみると、我が家の氏神ならその先にある、と指された。しばらく進むと、石段があり、それを登ると鳥居がある。そこに、確かに「大國主神社」と社名を記した偏額が掲げられている。急な石段を上り詰める右手に社殿がひっそりと鎮座している。

雑草が蔓延るといふのでなく、そこそこの手入れもなされてい。石の柵石には、神社建設の高額寄付者の名前が刻んである。大阪市某々などは、故郷を錦で飾った地元出身者などであろう。

拝殿横に置かれた石の手洗いに癸未(昭和18年)建立と刻まれている。なぜ大國主神社にはつきりしなげな大國主が、あの当時の戦意高揚の雰囲気、この地域にも及んでいたことを、この神域がひっそりと、しかし雄弁に告げている。春の山戦跡がひそかに眠る。(k)

## 編集後記

最近、ある非常勤講師の先生から、組合に加入できないからという問い合わせがありました。三役で協議した結果、複数の大学で授業を担当するという仕事の性格上、当職員組合に入頂くには無理があるのではないかと、結論になりました。含めて、非常勤の先生方も山大学でできるような思いです。(荻野)